

岡山大学の理念・目的・目標

1. 岡山大学の理念 “高度な知の創成と的確な知の継承”

人類社会を安定的、持続的に進展させるためには、常に新たな知識基盤を構築していかねばなりません。岡山大学は、公的な知の府として、高度な知の創成（研究）と的確な知の継承（教育と社会還元）を通じて人類社会の発展に貢献します。

2. 岡山大学の目的 “人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築”

岡山大学は、「自然と人間の共生」に関わる、環境、エネルギー、食料、経済、保健、安全、教育等々の困難な諸課題に対し、既存の知的体系を発展させた新たな発想の展開により問題解決に当たるといふ、人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築を大学の目的とします。

このため、我が国有数の総合大学の特色を活かし、既存の学問領域を融合した総合大学院制を基盤にして、高度な研究とその研究成果に基づく充実した教育を実施します。

3. 岡山大学の教育の基本的目標

岡山大学は、大学が要請される最重要な使命である教育活動を充実させます。

これまでの高度な研究活動の成果を基礎として、学生が主体的に“知の創成”に参画し得る能力を涵養するとともに、学生同士や教職員との密接な対話や議論を通じて、個々人が豊かな人間性を醸成できるように支援し、国内外の幅広い分野において中核的に活躍し得る高い総合的能力と人格を備えた人材の育成を目的とした教育を行います。

教育理念

- ・自然と人間の共生を希求する。
- ・多様な文化・価値観を尊重する。
- ・地域と世界の発展に寄与する。

教育目標

- ・探究・創造する知性の育成 —自ら問いかけ学ぶ教育—
- ・豊かな教養と高度専門性の追求 —知の体系に根ざし専門を伸ばす教育—
- ・異文化理解に基づいた国際性の獲得—様々な文化・民族に親和する教育—
- ・社会的責任を担いうる個の確立 —自己と他者を認め合う教育—

■大学院医歯薬学総合研究科 人材養成目的と教育目標■

大学院医歯薬学総合研究科は、国際社会において高く評価され、地域社会に広く活用される研究成果の創出を基礎として、創造性豊かな自立した研究者、研究・教育・医療におけるリーダー、並びに高度な専門知識と、豊かな人間性に基づく倫理観を兼ね備えた医療職業人を養成する。

この人材養成目的を実現するために、以下の教育目標を掲げる。

- 1) 社会的ニーズを把握し、地域から国際社会まで貢献する医療・研究・教育分野を構築する
- 2) 医・歯・薬学の専門的知識を結集した学際的研究・教育を推進する
- 3) 世界をリードする先端的・独創的研究を推進し、研究成果を発信する
- 4) 高度で幅広い知識を教授し、科学の進歩に適応しうる問題解決能力を涵養する
- 5) 社会人に再教育の場を提供して、生涯医療教育を推進する

【博士課程】

＜生体制御科学専攻＞

生体では、分子が細胞・組織を構成し、さらに高次レベルで統合され、器官・システム・個体が階層的に構成され、秩序を保って制御を受けている。疾患はこれらの制御と統合の乱れとして理解される。本専攻では、生命現象を包括的に捉え、生体の制御機構を明らかにし、疾患の成立機序の解明と治療に結びつける研究を推進・展開する。このような研究基盤を踏まえて、例えば、ヒトゲノム解析の研究成果を基盤として、正常時から疾患時における特定の細胞・組織・器官・システムの生命現象を分子制御機序に基づいた現象として理解すると共にそれを先端的医療へ応用・展開することのできる高度な専門的研究指向能力を備えた医療人を育成する。さらに、地域的・国際的な場で強い指導力を発揮できる高度な専門的実地指導推進型の医療人を養成する。

この人材養成目的を実現させるため、国際的視野に立つ豊かで高度な情報力と医療実践能力を涵養し、以下に示す専門分野の研究能力と専門的指導力を身に付ける教育を目指す。

- 1) 正常時から疾患時における、特定の細胞・組織・器官・システムにおける分子制御機序に基づいた包括的生命現象の基礎的理解とそれに基づく臨床的応用展開
- 2) 正常時から疾患時における、入出力系を介して高次で統合する脳神経・感覚器系の機能制御機構の基礎的理解とそれに基づく臨床的応用展開

＜病態制御科学専攻＞

病態を科学的に解明し、その分析結果から病態を制御する方法を創造することは医学・医療の基本的理念に基づくが、それが効率的になされるためには、基礎医学と臨床医学の有機的な連携が不可欠である。特に先端的な医療である遺伝子治療、移植医療、放射線医療においては、基礎的なおかつ革新的な研究成果の具現化が、有効な臨床成果につながっていく。本専攻は、基礎研究の成果をトランスレーショナルリサーチとして臨床研究に取り入れ、これを再構築し、先端的な制御医学を開発・臨床応用できる人材の養成を目指すとともに、腫瘍をはじめとする病態を臨床的な視点から科学的に分析し、臨床成果に直結する臨床研究を行える人材の養成を目指す。

この人材養成目的の実現を図るために、以下の教育目標を掲げる。

- 1) ヒトゲノム解析の概念の理解、ゲノム情報に基づいた病態整理と疾患概念についての創造的な考察、遺伝子と細胞制御ならびに情報伝達制御を基盤として個々の病態に的確に反応する治療方法の開発と臨床応用の推進
- 2) 移植後の拒絶反応と臓器機能不全のメカニズムの理解とこれらの現象を制御する研究の推進
- 3) 病態機構の理解と特に腫瘍に焦点を当てた腫瘍の遺伝子治療や免疫治療の理解
- 4) 分子標的診断、治療の画像診断やPETなどの核医学診断を用いる新しい手法の理解
- 5) 統計学、疫学の系統的な学習と臨床研究の手法の理解
- 6) 医薬品の薬効評価、体内動態特性評価、高次機能を有する製剤化、適正使用など新規薬物療法の開発研究の推進

＜機能再生・再建科学専攻＞

21世紀の医療は、高度高齢化社会の到来により必然的に自己治癒能力の低下した患者への対応が要求され、且つ生活の質（quality of life）の向上という社会的要求にも応える責務がある。硬組織及び軟組織の損傷あるいは欠損を生じた場合、その組織の機能回復には自・他家の組織、または人工材料を用いるにしても組織再生・再建が必須である。そのためには組織の形成機構ならびに機能制御の本質を臓器・組織から分子レベルまで分析・熟知する必要がある。この専攻系は生体機能・形態を再生・再建の観点から基礎および臨床の面から総合的に研究し、新しい再生・再建医療のスペシャリスト養成を目指すとともに、同分野の専門医の養成も目標として掲げる。

この人材養成目的の実現を図るために、以下の教育目標を掲げる。

- 1) 細胞・組織の機能、構造について分子レベルから器官形成に至るまでの基礎研究と、それらに基づいた組織再生・再建への臨床応用研究の推進
- 2) 組織、器官別の生体材料開発と共に生体材料と生体の相互作用の解析ならびに患者の quality of life 向上を目指した臨床応用研究の推進
- 3) 生体の各領域が特異的に有する生命現象の多面的機能解析の推進
- 4) 生体が本来有する組織・器官の機能、形態の再生・再建制御機構の解析と臨床応用研究の推進
- 5) 口腔・顎・顔面領域特有の機能の多面的解析を行い、総合的な機能再生・再建研究の推進

＜社会環境生命科学専攻＞

本専攻では、21世紀の医学・医療が抱える問題を人権擁護・生命倫理の観点から捉え、研究方法論の構築を通して解決の道を模索する。また、全ての人々に保証されるべき生命と健康を脅かす環境問題、地球温暖化に伴う医学的問題、並びに新興・再興感染症など、地球規模で取り組むべき課題への解決策を探索出来る、高度な専門的研究指向能力を備えた医療人を育成する。更に、確実に到来しつつある長寿社会における、社会構造並びに疾病構造の変化に対応した医学・医療を探索することが出来、健康の意味と尊厳ある生活とは何かを思考する人材の養成を目指す。

この人材養成目的の実現を図るために、以下の教育目標を掲げる。

- 1) 生命倫理（ないし医療倫理）についての理解
- 2) 生きる権利をも脅かす犯罪、事故(特に医療関連死)などに関する権利侵害と外的要因との医学的因果関係解明に必要な思考・方法論の修得
- 3) 生活環境や職場環境における微量化学物質曝露に対する、また、新興・再興感染症や薬剤耐性菌などに対する総合的な対策の理解
- 4) 従来 of 病気を発想の原点とする学問（disease-oriented concept）に対し、健康を発想の原点とする学問（health-oriented concept）の構築
- 5) 医療情報の特性、情報通信技術、医療情報システムについて学習し、システムとしての保健・医療を理解

【修士課程】

＜医歯科学専攻＞

大学・学部を問わず自然科学及び応用科学等の多様な専門性を身につけた学生に対して、医歯学に関する幅広い知識と技術を体系的・集中的に教育することにより、医歯学の先端的な研究及び医療の推進に貢献し得る人材を養成する。さらに、医学、歯学の知識を併せ持つ高度な技術者など新たなニーズに応えるための人材を養成することを目的とする。

この人材養成目的の実現を図るために次の教育目標を掲げる。

- 1) 高度医歯学領域の知識・技術修得を目指す教育の推進
- 2) 高度先端医療の普及及びトランスレーショナルリサーチに対応した人材の養成と研究の推進
- 3) 学際的な医歯学教育・研究の推進

■大学院医歯薬学総合研究科 ポリシー■

【博士課程】

➤ ディプロマ・ポリシー

大学院医歯薬学総合研究科は、医学・歯学・薬学の領域で、教育研究、先進的医療の中核拠点として、我が国および地域に貢献する融合型の医療系大学院です。博士課程では、国際社会において高く評価されると共に地域社会に広く活用される研究成果の創出を通じて、創造性豊かで自立した研究者、教育・研究・医療におけるリーダー的の大学教員、ならびに高度な専門知識と豊かな人間性に基づく倫理観を兼ね備えた医療職業人を育成しています。そのため、次のような教養、専門性、情報力、行動力、自己実現力を身につけることを求めています。

人間性に富む豊かな教養【教養】

広い学識を習得し、学術的問題を見出すとともに、その問題解決に向けての論理的思考力・判断力・創造力を有し、人間性や倫理観に裏打ちされた研究者としての豊かで国際的な教養を身につけている。

目的につながる専門性【専門性】

医学・歯学・薬学に関する幅広い高度な専門知識と技能、態度を身につけて社会に貢献できる。

効果的に活用できる情報力【情報力】

幅広い学術研究領域の情報を自ら収集・分析し、適切に発信できる。

時代と社会をリードする行動力【行動力】

グローバル化に対応した国際感覚を有し、自己の専門分野をもって社会をリードする行動ができる。

生涯に亘る自己実現力【自己実現力】

自己実現に向けて、生涯に亘り医学・歯学・薬学の発展に寄与する高い学習意欲を持ち、研鑽を積むことができる。

所定の単位を修得し、研究指導を受け、自ら学位論文を作成・発表して、学位審査を受け、最終試験に合格することが、博士（医学・歯学・薬学・学術）の学位授与の要件です。この過程を通して、人類の知の限界を僅かに広げつつ、人間・社会・自然についての自らの視点と理解を理性に基づいて示す必要があります。学位審査については、公開の「学位申請の手引き」として学位論文の提出方法を定め、学務委員会で選出される委員で構成される審査委員会を設置して、学位審査発表会を実施します。審査報告書に基づき教授会において学位授与について最終判定されます。

➤ カリキュラム・ポリシー

大学院医歯薬学総合研究科博士課程では、ディプロマ・ポリシーに掲げる卓越した人材を育成するため、地域から国際社会までに貢献する教育研究領域として、生体制御科学専攻、病態制御科学専攻、機能再生・再建科学専攻、および社会環境生命科学専攻の4専攻を設置しています。また、ディプロマ・ポリシーで定めた能力を円滑に獲得できるように、次のようにカリキュラムを編成しています。

人間性に富む豊かな教養【教養】

知的好奇心を惹起するため、共通コア科目として大学院レベルの教養教育科目「研究方法論基礎」「研究方法論応用」を設定しています。国際性涵養のため英語による授業シリーズ **Medical Science Series** が含まれます。多様な学問領域に関心を持てるよう、学内外で開催される研究会及び講演会も研究方法論の授業とみなすこともあります。

目的につながる専門性【専門性】

本博士課程の専門領域は多岐にわたるため、複数のコースを設定しています。

一般コースでは、専門科目により研究手法の取得と論文の作成を行います。また専門科目に副科目を置き、学際的な内容に対応できるようにしています。他機関と共同で設置された連携大学院科目を履修することも可能です。

臨床専門医コース（医学系）では、高度な専門的臨床能力や全人的な視野を持った診療能力、国際的視野を持った臨床研究能力の所得を目的として、共通コア科目として「疫学」「医療統計学」「臨床研究・予防医学実践論」を履修します。副科目として選択プログラムや他機関に設置された連携大学院科目を履修することも可能です。

臨床専門医コース（歯学系）では、高度な専門的臨床能力及び臨床研究を理解し実践できる能力を所得することを目的として、研究デザインワークショップをコア科目としています。専門医取得に連動した科目を専門科目として履修しますが、選択プログラムを副科目として履修することも可能です。

がんプロフェSSIONALコースでは、がんに特化した臨床研究方法の理解と実践、トランスレーショナルリサーチの実践ができる人材を育成すべく、メディカル、コメディカル共通のカリキュラム履修や、多職種によるチーム医療等を実施します。

分子イメージング教育コースでは、生体分子イメージング技術に携わる研究者・大学教員・医療分野の高度専門職業人を養成する目的で、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科と理化学研究所との連携大学院協定に基づいて、生体分子イメージング技術に関する基礎から臨床応用にわたる広範な講義や演習・実習を実施します。

アカデミック GP 養成コースでは、横断的・統合的な研究・教育能力を持つ医師を育成するために、基礎研究から臨床研究までの幅広い研究を行えるように科目設定がなされています。

効果的に活用できる情報力【情報力】

研究に必要な学術論文などの情報を収集・活用するための手法を身につけるため、教養教育科目「研究方法論基礎」に情報力についての授業を組み入れています。また情報発信能力も身につけるため、実習・演習科目は研究成果の学会発表や論文発表も含んでいます。国際的な情報力の涵養のため、国際学会での成果発表を行う授業科目「グローバルプレゼンテーション」を設定しています。

時代と社会をリードする行動力【行動力】

専門科目として、各専門領域における最先端の研究を自らの手で行うとともに、その成果を能動的に研究発表することが求められます。さらに、研究が中間段階に達したところで共通コア科目「課題研究セミナー」として、分野が異なる教員や学生を対象に研究発表すること、最終的には学位論文として発表することも求められます。

教員を目指す学生は、「医学教育実習」、「歯学教育実習」として特別聴講学生が参加する学部レベルの実習・演習授業で教育実習を行い、国際性ととも自ら計画を立て実施する行動力を身につけます。これらの授業により、時代と社会をリードする行動力を身につけます。

生涯に亘る自己実現力【自己実現力】

研究と発表、ならびに論文作成の達成には、自らを振り返り、高い水準の欲求を自覚し、自己実現に向けた継続的な努力が必要です。これらを学生に求めつつ、社会人や留学生にも対応したカリキュラムを提供しています。

成績評価

共通コア科目では主に総括的評価、専門科目では主に形成的評価を行います。

➤ アドミッション・ポリシー

求める学生像

大学院医歯薬学総合研究科博士課程では、次のような学生を求めています。

- ・医学・歯学・薬学領域の創造的研究，学際的研究，国際的研究を志す人
- ・高度先端医療，全人的医療を志す人
- ・医療系社会人として活躍しながら研究を志す人
- ・6年制の医学・歯学・薬学教育を受け医療資格を有する人，または関連領域の修士課程，博士前期課程の修了者として相応しい知識・技能・態度を習得している人

入学者選抜の基本方針

人間・社会・自然を理性的に理解するための視点は様々であり，多様な学生を確保するために6種の入学者選抜試験を実施しています。

一般入試（第1回，第2回）

筆記試験と口述試験を課しています。筆記試験では，医歯薬学分野の英語課題を用い，語学力のみならず，論理構造の理解力，日本語の表現力等を総合的に評価します。また，志望する教育研究分野の専門科目により，医歯薬学の専門性への理解力を評価します。専門科目の口述試験では，専門科目に関する知識，理解力やキャリアプランなどについて志望する研究分野の教員が評価します。

進学者選考

筆記試験と口述試験を課しています。筆記試験では，医歯薬学分野の英語課題を用い，語学力のみならず，論理構造の理解力，日本語の表現力等を総合的に評価します。専門科目の口述試験では，専門科目に関する知識，理解力やキャリアプランなどについて志望する研究分野の教員が評価します。

ARTプログラム特別入試

筆記試験と口述試験を課しています。筆記試験では，医歯薬学分野の英語課題を用い，語学力のみならず，論理構造の理解力，日本語の表現力等を総合的に評価します。また，志望する教育研究分野の専門科目により，医歯薬学の専門性への理解力を評価します。専門科目の口述試験では，専門科目に関する知識，理解力やキャリアプランなどについて志望する研究分野の教員が評価します。

外国人留学生特別入試

面接試験，筆記試験と口述試験を課しています。面接試験では，受験時まで習得した専門性，キャリアプラン，就学の前提となる異文化適応状況と経済状況などについて，複数の教員が多面的に確認します。筆記試験では，英語課題または日本語課題から1カ国語を選択し，論理構造の理解力，解答の執筆能力等を総合的に評価します。専門科目の口述試験では，専門科目に関する知識，理解力やキャリアプランなどについて志望する研究分野の教員が評価します。

外国人留学生海外特別入試

書類審査，面接試験を総合して行います。面接試験では，受験時まで習得した専門科目に関する知識，理解力やキャリアプラン，就学の前提となる異文化適応状況と経済状況などについて，複数の教員が多面的に確認します。

O-NECUS 修了者特別入試

O-NECUS プログラムの成績（学力・意思・意欲），書類審査により，専門科目に関する知識，理解力やキャリアプラン，就学の前提となる異文化適応状況と経済状況などについて，志望する研究分野の教員が評価します。

学力の3要素対応表

入試区分	知識・技能		思考力・判断力・表現力等の能力		主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度	
一般入試	☆	口述試験（専門科目）	◎	英語 専門科目	☆	口述試験（専門科目）
進学者選考	☆	口述試験（専門科目）	◎	英語	☆	口述試験（専門科目）
ARTプログラム特別入試	☆	口述試験（専門科目）	◎	英語 専門科目	☆	口述試験（専門科目）
外国人留学生特別入試	☆	面接 日本語又は英語の外部検定試験の成績 口述試験（専門科目）	◎	英語又は日本語	☆	面接 口述試験（専門科目）
外国人留学生海外特別入試	☆	面接（Skype） 日本語又は英語の外部検定試験の成績	☆	書類審査	☆	面接（Skype）
O-NECUS 修了者特別入試	☆	書類審査	☆	O-NECUS プログラム成績	☆	O-NECUS プログラム成績

(注) ◎は特に重視する要素, ○は重視する要素, ☆は総合的な判断となる要素

各要素に関する資料は,「主とする資料」であり, それ以外の要素でも活用する場合はある。

【修士課程】

➤ **医歯科学コース ディプロマ・ポリシー**

大学院医歯薬学総合研究科は、医学・歯学・薬学の領域で、教育研究、先進的医療の中核拠点として、我が国および地域に貢献する融合型の医療系大学院です。

医歯科学専攻（修士課程）医歯科学コースでは、学部で学んだ専門領域と本専攻で学ぶ医歯科学領域の複眼的視点で社会の課題を解決して自立・自己実現できる人材を養成します。例えば、保健・医療・福祉関連企業で研究・開発・生産管理・技術営業に従事する高度専門職業人、高度で知的な素養を持つ公務員や中等教育教員、研究者や大学教員を目指す博士課程進学者などを想定しています。

次の二要件を満たした者に、修士（医科学）、修士（歯科学）、または修士（学術）の学位が授与されます。

- ・コースワークとリサーチワークにより教養、専門性、情報力、行動力を習得し、その学修成果を所定の単位として取得することが必要です。
- ・リサーチワークの成果を学生自身が学位論文としてまとめ、公開の場で発表・討論することにより、自らの論理的思考力、研究遂行能力、説得力が所定の水準を満たしていることを能動的に示すことが必要です。

➤ **医歯科学コース カリキュラム・ポリシー**

学部で学んだ専門領域に加えて、円滑に医歯科学を学ぶことができるよう教育課程を編成しています。

- ・コースワークでは、入学後早期に、1. 大学院レベルの教養（キャリア支援特別講義を含む）、2. 人体の正常な構造と機能、3. 病気の成り立ち、4. 病気の診断と治療、5. 人間集団と保健・医療・福祉について、順次講義科目で集中的に学びます。さらに、「人体解剖学実習」で学習内容を確認します。これらの学修により、医歯科学の教養を身に着け専門性を習得します。
- ・リサーチワークは、研究の情報収集・計画立案・実施・記録を行う実習科目と、研究目的・方法・結果を論理的に発表・討論する演習科目で構成されています。合わせて、国際学会での成果発表を推奨する授業科目を設定しています。これらの科目では、能動的な情報力、行動力、国際性を涵養します。
- ・講義科目では主に総括的評価、実習・演習科目では主に形成的評価を行います。

➤ **医歯科学コース アドミッション・ポリシー**

複眼的視点を持つ高度人材を育成するため、文系・理系を含め学部の専門分野は問いません。

- ・出身学部の専門性に応じて、学士に相応しい知識・技能・態度を習得している学生を求めています。
- ・学部の専門性に加えて医歯科学を修めることで、ディプロマ・ポリシーが想定する高度人材として世に出る強い意思を有する学生を求めています。
- ・実学としての医歯科学を学び、自らの手で粘り強く先端研究を行って知識・技能・態度を総合的に習得する能力を持つ学生を求めています。
- ・知識・技能・態度の習得や自立・自己実現のため、周囲との信頼関係を醸成できる学生を求めています。
- ・さらに、自立・自己実現には学際性や国際性が必須となった時代背景を理解し、実践できる学生を求めています。

入学者選抜の基本方針

入学者選抜試験を毎年夏と冬の2回実施し、合格者は4月に入学します。

- ・日本人志願者等

筆記試験と口述試験を課しています。筆記試験では、医歯科学分野の平易な英語課題により、語学力のみならず、学士レベルの教養、論理構造の理解力、日本語の表現力等を総合的に評価します。口述試験では、キャリアプランの具体性、志望度、学部で習得した専門性、人間的信頼性などについて志望分野の教員が口頭試問により評価します。
- ・外国人志願者等

面接試験、筆記試験と口述試験を課しています。面接試験では、学部で習得した専門性、キャリアプラン、就学的前提となる異文化適応状況と経済状況などについて、複数の教員が多面的に確認します。筆記試験では、英語課題または日本語課題から1カ国語を選択し、論理構造の理解力、解答の執筆能力等を総合的に評価します。口述試験は、日本人志願者等の場合と同様に評価します。

学力の3要素対応表

入試区分	知識・技能		思考力・判断力・表現力等の能力		主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度	
日本人志願者等	☆	口述試験（専門科目）	◎	英語	☆	口述試験（専門科目）
外国人志願者等	☆	面接 日本語又は英語の外部検 定試験の成績 口述試験（専門科目）	◎	英語又は日本語	☆	面接 口述試験（専門科目）

（注）◎は特に重視する要素、○は重視する要素、☆は総合的な判断となる要素
各要素に関する資料は、「主とする資料」であり、それ以外の要素でも活用する場合はある。

➤ **公衆衛生学コース ディプロマ・ポリシー**

大学院医歯薬学総合研究科は、医学・歯学・薬学の領域で、教育研究、先進的医療の中核拠点として、我が国および地域に貢献する融合型の医療系大学院です。

医歯科学専攻（修士課程）公衆衛生学コースでは、学部教育または社会人としての実務経験を通して培った専門性に加えて、実学としての公衆衛生学5分野を広く深く学修します。修了後は、リサーチマインドを有する保健・医療・福祉従事者、公務員、企業研究者などとして自立・自己実現するとともに、地域に貢献することを想定しています。

次の二要件を満たした者に、修士（公衆衛生学）、または修士（学術）の学位が授与されます。

- ・コースワークとリサーチワークにより教養、専門性、情報力、行動力を習得し、その学修成果を所定の単位として取得することが必要です。
- ・リサーチワークの成果を学生自身が学位論文としてまとめ、公開の場で発表・討論することにより、自らの論理的思考力、研究遂行能力、説得力が所定の水準を満たしていることを能動的に示すことが必要です。

➤ **公衆衛生学コース カリキュラム・ポリシー**

学部または社会人としての実務経験を通して培った内容に加えて、円滑に公衆衛生学を学ぶことができるよう教育課程を編成しています。

- ・コースワークでは、大学院レベルの教養教育科目として「医歯科学概論」や「社会医歯科学」を学び、その後、公衆衛生大学院の国際標準である疫学、生物統計学、環境保健学、社会科学・行動科学方法論、及び保健医療管理学の必須5分野を含む科目を履修します。これらの学修により、医歯科学の教養を身に付け公衆衛生学の専門性を習得します。
- ・リサーチワークは、研究の情報収集・計画立案・実施・記録を行い、その後自ら研究目的・方法・結果を論理的に発表・討論する演習科目で構成されています。合わせて、国際学会での成果発表を推奨する授業科目を設定しています。これらの科目では、能動的な情報力、行動力、国際性を涵養します。
- ・講義科目では主に総括的評価、実習・演習科目では主に形成的評価を行います。

➤ **公衆衛生学コース アドミッション・ポリシー**

リサーチマインドを持って地域に貢献する保健・医療・福祉従事者を育成するため、原則として医療分野のバックグラウンドを持つ方を求めています。

- ・医療関連学部で習得した専門知識、また医療分野で実務経験を有する方を求めています。
- ・さらに本修士課程で公衆衛生学を修めることで、ディプロマ・ポリシーが想定する高度人材として世に出る強い意思を有する学生を求めています。
- ・実学としての公衆衛生学を学び、自らの手で粘り強く先端研究を行って知識・技能・態度を総合的に習得する能力を持つ学生を求めています。
- ・知識・技能・態度の習得や自立・自己実現のため、周囲との信頼関係を醸成できる学生を求めています。
- ・さらに、自立・自己実現には学際性や国際性が必須となった時代背景を理解し、実践できる学生を求めています。

入学者選抜の基本方針

入学者選抜試験を毎年夏と冬の2回実施し、合格者は4月に入学します。

- ・日本人志願者等

筆記試験と口述試験を課しています。筆記試験では、医歯科学分野の平易な英語課題により、語学力のみならず、学士レベルの教養、論理構造の理解力、日本語の表現力等を総合的に評価します。口述試験では、キャリアプランの具体性、志望度、学部で習得した専門性、人間的信頼性などについて志望分野の教員が口頭試問により評価します。

- ・外国人志願者等

面接試験、筆記試験と口述試験を課しています。面接試験では、学部で習得した専門性、キャリアプラン、就学的前提となる異文化適応状況と経済状況などについて、複数の教員が多面的に確認します。筆記試験では、英語課題または日本語課題から1カ国語を選択し、論理構造の理解力、解答の執筆能力等を総合的に評価します。口述試験は、日本人志願者等の場合と同様に評価します。

学力の3要素対応表

入試区分	知識・技能		思考力・判断力・表現力等の能力		主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度	
日本人志願者等	☆	口述試験（専門科目）	◎	英語	☆	口述試験（専門科目）
外国人志願者等	☆	面接 日本語又は英語の外部検 定試験の成績 口述試験（専門科目）	◎	英語又は日本語	☆	面接 口述試験（専門科目）

(注) ◎は特に重視する要素、○は重視する要素、☆は総合的な判断となる要素

各要素に関する資料は、「主とする資料」であり、それ以外の要素でも活用する場合はある。

➤ 分子イメージング技術習得コース ディプロマ・ポリシー

大学院医歯薬学総合研究科は、医学・歯学・薬学の領域で、教育研究、先進的医療の中核拠点として、我が国および地域に貢献する融合型の医療系大学院です。

歯科学専攻（修士課程）分子イメージング技術習得コースでは、学部で学んだ専門領域と本専攻で学ぶ歯科学領域の複眼的視点、殊に最先端の分子イメージング技術を駆使して社会や医療の課題を解決し自立・自己実現できる人材を養成します。例えば、製薬企業や医療機関の分子イメージング施設で活躍できる高度専門職業人、研究者や大学教員を目指す博士課程進学者などを想定しています。

次の二要件を満たした者に、修士（医科学）、修士（歯科学）、または修士（学術）の学位が授与されます。

- ・コースワークとリサーチワークにより教養、専門性、情報力、行動力を習得し、その学修成果を所定の単位として取得することが必要です。
- ・リサーチワークの成果を学生自身が学位論文としてまとめ、公開の場で発表・討論することにより、自らの論理的思考力、研究遂行能力、説得力が所定の水準を満たしていることを能動的に示すことが必要です。

➤ 分子イメージング技術習得コース カリキュラム・ポリシー

学部で学んだ専門領域に加え、入学後は歯科学の概論を学んだ後、核医学イメージング、光イメージング、磁気共鳴イメージングなどの技術について見識を深めます。これらの技術を用いた基礎から臨床への橋渡し研究、放射性医薬品の創薬研究、放射性物質の標識技術を含む薬剤製造などを実践体験できるよう教育課程を編成しています。

- ・コースワークでは、入学後早期に、1. 大学院レベルの教養（キャリア支援特別講義を含む）、2. 人体の正常な構造と機能、3. 病気の成り立ち、4. 病気の診断と治療、5. 人間集団と保健・医療・福祉について、順次講義科目で集中的に学びます。さらに、「人体解剖学実習」で学習内容を確認します。これらの学修により、歯科学の教養を身に着け専門性を習得します。
- ・リサーチワークでは、「分子イメージング科学実習」として、おかやまメディカルイノベーションセンターの最先端の設備・機器を利用して研究を行います。「分子イメージング科学演習」では、研究の進捗について発表するとともに、岡山大学、および連携大学院の連携先である国立研究開発法人理化学研究所生命機能科学研究センターの教員のほか、全国の分子イメージング拠点で活躍する研究者による“分子イメージングに関する特別講義”を通じて、分子イメージング技術者に必要な最先端の知識を習得します。合わせて、国際学会での成果発表を推奨する授業科目を設定しています。これらの科目では、能動的な情報力、行動力、国際性を涵養します。
- ・講義科目では主に総括的評価、実習・演習科目では主に形成的評価を行います。

➤ 分子イメージング技術習得コース アドミッション・ポリシー

複眼的視点を持つ高度人材を育成するため、文系・理系を含め学部の専門分野は問いません。

- ・出身学部の専門性に応じて、学士に相応しい知識・技能・態度を習得している学生を求めています。
- ・学部の専門性に加えて歯科学を修めることで、ディプロマ・ポリシーが想定する高度人材として世に出る強い意思を有する学生を求めています。
- ・実学としての歯科学を学び、自らの手で粘り強く先端研究を行って知識・技能・態度を総合的に習得する能力を持つ学生を求めています。
- ・知識・技能・態度の習得や自立・自己実現のため、周囲との信頼関係を醸成できる学生を求めています。
- ・さらに自立・自己実現には学際性や国際性が必須となった時代背景を理解し、実践できる学生を求めています。

入学者選抜の基本方針

入学者選抜試験を毎年夏と冬の2回実施し、合格者は4月に入学します。

- ・日本人志願者等

筆記試験と口述試験を課しています。筆記試験では、歯科学分野の平易な英語課題により、語学力のみならず、学士レベルの教養、論理構造の理解力、日本語の表現力等を総合的に評価します。口述試験では、キャリアプランの具体性、志望度、学部で習得した専門性、人間的信頼性などについて志望分野の教員が口頭試問により評価します。

- ・外国人志願者等

面接試験、筆記試験と口述試験を課しています。面接試験では、学部で習得した専門性、キャリアプラン、就学的前提となる異文化適応状況と経済状況などについて、複数の教員が多面的に確認します。筆記試験では、英語課題または日本語課題から1カ国語を選択し、論理構造の理解力、解答の執筆能力等を総合的に評価します。口述試験は、日本人志願者等の場合と同様に評価します。

学力の3要素対応表

入試区分	知識・技能		思考力・判断力・表現力等の能力		主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
日本人志願者等	☆	口述試験（専門科目）	◎	英語	☆ 口述試験（専門科目）
外国人志願者等	☆	面接 日本語又は英語の外部検 定試験の成績 口述試験（専門科目）	◎	英語又は日本語	☆ 面接 口述試験（専門科目）

(注) ◎は特に重視する要素、○は重視する要素、☆は総合的な判断となる要素

各要素に関する資料は、「主とする資料」であり、それ以外の要素でも活用する場合はある。